学校生活川柳

平成二十四年三月一日

「卒業」（百句）

よくもった　俺の根性　このブレザー

（いろいろな壁にぶつかりながらも、何とか迎えた卒業の日。
この三年間を象徴するブレザー。そして気がつけばたくましく
成長した自分がいる。心から「卒業おめでとう！」）

三年間　得たもの一つ　達成感
後悔の　文字だけ浮かぶ　三年間
三年も　経てば居心地　良いところ
向かい風　しのぎようやく　追い風が
担任は　人が良過ぎる　最後まで
公立や　共学よりも　呉港高
うれしい　生活指導　ついに完
もう二度と　受けることない　定期試験
三年間　悔いはあるけど　今終わる
長過ぎる　思った日々が　迷いなし
三年間　特に思い出　無く終わる
三年間　見つけたものは　友と夢
いくつも　山乗り越えて　今ここに
大丈夫　俺のならきっと　やれるはず
進む道　拓いてくれた　わが担任
我慢せず　心の底から　泣いてやる
信じよう　輝く明日は　自由
しばりなし　これから自由　満喫だ
先生へ　なんだかんだで　ありがとう
仲間との　別れはやっぱり　辛すぎる
担任へ　迷惑かけて　ごめんなさい
今になり　ったところが　懐かしい
三年は　思えばとても　短いね
最後には　大きな返事　してみるか
甘えるな　聞けなくなるの　寂しいな
「辛いことだが　また会える
お別れは　辛いと手にする　この証書
苦労した　充実していた　三年間
早かった　心も空も　受験生
卒業式　晴れるかな
「世の中の　厳しさ知った
サクラ咲け　願う呉港の
種を残し　去って行く
卒業式で　眠らない
青春の　言葉は　感動した
頑張った　残す言葉は　言い辛く
断言する　次なる道を　開いてく
ありがとう　大学行っても　三年間
よく耐え抜いた　思い続ける　メールきそう
あの人だけには　「また明日」　ありがとう
後輩に　辞めたい　クラブに
卒業が　と　ありがとう
担任から　心から　ずさむ
辞めたい　楽しい思い出　終わっていた
心から　校歌をなぜか　待っていた
三年間　会ってなければ　ロ
嫌だった　出　ならば
担任に　この日をひたすら
卒業式　あと十年　素直に
追試の日　こ　なれば
無茶ぶり　あれ　皆勤賞
涙なく　この日だけ　懐かしく
笑い　卒業すれば　繋いで
明日から　自力で歩む　三年間　くれ
パンパス　俺らの伝統　この道を
たくさんの　笑顔をみんな　ありがとう
別れじゃない　さ　旅立ちさ

野球部で　人生経験　十年分
また一歩　大人への道　進んでく
辞めないで　何とか今日まで　頑張った
やり直し　したいと思えど　時遅し
さようなら　先生たちと　校則よ
これからだ　俺の楽しい　人生は
卒業を　したい一心　努力する
卒業が　待ち遠しくて　たまらない
切り抜けた　赤点まみれ　生き地獄
人生の　ホントの勝負　四月から
あの顔も　今日でとうとう　見納めに
目の前の　新たな世界は　天か地か
わが友へ　築いた絆　永遠に
あの夏の　気持ち忘れず　次の道
気がつけば　母さんすっかり　白髪増え
お前らと　過ごした日々は　宝物
プロセスは　忘れゴールに　歓喜する
辛き日々　いつか笑いに　変わる日が
晴れの日は　涙見せずに　ハイタッチ
分かれ道　どう生きるかは　自分次第

【保護者作】

卒業を　息子するけど　親はまだ
兄弟で　お世話になった　四年間
弁当の　おかず買うのも　もう終わり
母親も　母校となった　呉港高
思ったより　大変だった　親も子も
赤点で　落ち込む息子　見納めに
これからは　呉港の良さを　伝えよう
授業料　実感的に　安くつき
つい笑い　十七文字で　目に浮かぶ
たつ春の　君に願わん　幸あれと
幼き日　脊負うた脊中　懐かしく
いつの日か　母校に栄える　人となれ
温かく　厳しい日々を　忘れずに
学び舎へ　今日までの日々　ありがとう
さあ行こう　君の未来の　架け橋へ

【教員はなむけ川柳】

卒業も　合格通知が　春を呼ぶ
人生は　野呂に屋久島　また登山
これからは　自省忘れず　前を向け
呉港生　やればできると　期待こめ
これからが　人生の勝負　負けるなよ
巣立っても　イケ面スマイル　忘れずに
今はまだ　宝と気づかぬ　こともあり
今は貴重　あっという間に　過去になる
道険し　されど前向き　生きて行く
学び舎で　流した汗も　懐かしく
卒業後　きらり光らせ　呉港だましい
寂しさも　新たな出会いに　思い馳せ
忘れるな　手塩にかけた　親の愛
屋久島の　杉に見ならふ　底力

Be honest,
Still be a loser,
The richest man in the world, I see.